

常磐線舞台芸術祭 二〇二三
JOBAN LINE PERFORMING ARTS FESTIVAL 2023

今夏、常磐線沿線で初開催。

「常磐線舞台芸術祭 2023」の22プログラムラインナップ発表

福島県、宮城県、茨城県内常磐線沿線を舞台に、上演・ワークショップ・ツアーなど多彩なプログラムを展開

常磐線舞台芸術祭実行委員会は、2023年7月31日（月）～8月13日（日）の14日間に、常磐線沿線を中心とし、各所で上演、ワークショップ、地域を知るツアーなどの多彩なプログラムを実施する「常磐線舞台芸術祭 2023」を開催いたします。

本芸術祭は、2018年よりプログラム・ディレクターである柳 美里が発起人となり計画し、開催に向け始動したものの、コロナ禍の影響により延期を余儀なくされ、本年2023年に晴れて開催を迎える運びとなりました。上述した通り、プログラム・ディレクターは柳 美里が、フェスティバル・コーディネーターは平田オリザが務め開催を計画しております。

常磐線舞台芸術祭 2023 JOBAN LINE PERFORMING ARTS FESTIVAL 2023

第一回テーマ 「つなぐ、」

開催期間 2023年7月31日（月）～8月13日（日）

開催地 福島県、宮城県、茨城県内常磐線沿線、他

参加団体・アーティスト

青森中央高校演劇部／福島県の高校生たち、尾崎世界観（クリープハイフ）、小松理虔、後藤正文（ASIAN KUNG-FU GENERATION）、佐藤厚志、青春五月党、青年団、田島貴男（Original Love）、津村禮次郎、畑澤聖悟、福名理穂（ぼぶりか）、古川日出男、堀川 炎、Miya、森 幸彦、山本卓卓（範田遊泳）、柳 美里、和合亮一、渡辺源四郎商店、他

公式ウェブサイト <http://joban-line-paf.jp/>

主催 常磐線舞台芸術祭実行委員会、一般社団法人常磐線舞台芸術祭

本件に関するお問い合わせ

常磐線舞台芸術祭実行委員会 事務局 広報担当：冠、宮崎、山根（地域連携）

e-mail：press@joban-line-paf.jp

今、ここで、舞台芸術に何ができるのか？

それは、隔てられているものを、どうしたらつなぐことができるのか、という問いでもある。線という言葉は、分断や対立に用いられるが、糸と泉で成り立っていることから、人間の本源が対立ではなく、混じり合うところにあるということを表している、とわたしは思う。立場や考え方によって隔てられていても、わたしたちは互いに重層して関連し合う空間と時間の中に生まれ、食べ、暮らし、そして死んでいく。先ず、つなぐ、という意志を持つ。つなごうとした指先が届かなかったとしても、つないだ後に再び隔たりが生じてしまったとしても、わたしから出発してあなたへと向かう、その軌跡が糸となり泉となり得るのではないか？

常磐線舞台芸術祭 プログラム・ディレクター
柳 美里

connecting the dots

昨今、教育の世界でも、この言葉がよく使われるようになりました。いつでも、どこでも、(にせものも含めて) 情報を大量に得られるこの時代に、点と点、得られた情報と情報の断片をつないで、物語を紡いでいく能力が求められます。これまで、ふたば未来学園で行ってきた演劇教育も、まさにそのような営みだったのだと思います。風評もフェイクも、過去も未来も、そして震災と原発事故でズタズタになってしまった福島・浜通りのそれぞれの市や町を、人々の小さな生活を、物語でつないでいく。この常磐線舞台芸術祭が、世界でも希な「線」の芸術祭に育っていければと願います。

常磐線舞台芸術祭 フェスティバル・コーディネーター
平田オリザ

プログラム一覧

ページ	日程	プログラム名称	会場
P.9	7月21日(金)～ 7月28日(金) ※プレ公演 8月4日(金)～ 8月6日(日)	1 青春五月党 『JR常磐線上り列車 - マスクー 』	Rain Theatre
P.10	8月1日(火)～ 8月2日(水)	2 青年団 『銀河鉄道の夜』	勿来市民会館
P.11	8月1日(火)～ 8月2日(水)	3 『ザ・レディオ・ミルキー・ウェイ』 ラジオ朗読劇『銀河鉄道の夜』舞台版	新地町文化交流センター (観海ホール)
P.12	8月1日(火)	4 青森中央高校演劇部×福島県の高校生たち 『もしイタ ～もし高校野球の女子マネージャーが 青森の「イタコ」を呼んだら』	福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 多目的ホール 「みらいシアター」
P.13	8月2日(水)	5 青森中央高校演劇部 『ジンコちゃんの世界』	いわき芸術文化交流館アリオス 小劇場
P.14	8月5日(土)～ 8月6日(日)	6 渡辺源四郎商店 『空に菜の花、地に鉞』	新地町文化交流センター (観海ホール)
P.15	8月10日(木)～ 8月12日(土)	7 青年団 『阿房列車 / 思い出せない夢のいくつか』	Rain Theatre
P.16	8月5日(土)	8 日没を祭れ 2023 第一日『日没、新しい夜明けに』	東日本大震災・原子力災害 伝承館
P.17	8月11日(金)	9 日没を祭れ 2023 第二日『日没よ、鎮まれ。』	小高山 同慶寺
P.18	8月12日(土)	10 堀川 炎 『窓の外の結婚式』(利賀日本博プログラム)	平中央公園(いわき芸術文化交流館アリオス前広場)

Voice on Voice

ページ	日程	プログラム名称	会場
P19	① 8月3日(木) ② 8月4日(金)	11 『二つの駅舎、ボイス・オン・ボイス』 古川日出男×後藤正文	日程① JR 富岡駅周辺 日程② JR 新地駅周辺
P20	8月7日(月)	12 『JR 常磐線夜ノ森駅』 柳 美里×尾崎世界観	富岡町 夜の森公園周辺
P20	8月8日(火)	13 『浜通りと中通りの境』 和合亮一×田島貴男 (Original Love)	JR 福島駅東口周辺
P21	8月9日(水)	14 『荒地の家族』 佐藤厚志×Miya	未定

Workshop 演劇ワークショップ

ページ	日程	プログラム名称	会場
P22	8月2日(水)～ 8月3日(木)	15 福名理穂 (ぱぷりか) 劇作ワークショップ	いわき芸術文化交流館アリオス 大リハーサル室
P22	8月10日(木)	16 山本卓卓 (範宙遊泳) ワークショップ	相馬市民会館 多目的ホール

Tour ツアー

ページ	日程	プログラム名称	会場
P23	未定	17 原発事故による 旧避難区域内の文化財巡りツアー	未定
P23	8月6日(日)、 8月9日(水)	18 ロッコクツアー	国道6号線沿い

Foods 食

ページ	日程	プログラム名称	会場
P24	① 8月5日(土)、 ② 8月12日(土)	19 酒と話「どんちゃん港」	日程①UDOK, 日程②Share Place STUDIO B-6
P24	未定	20 フェスティバル・フードマーケット	未定

Opening/Closing オープニング・クロージング

ページ	日程	プログラム名称	会場
P25	7月31日(月)	21 KEYNOTE SPEECH	小高生涯学習センター (浮舟文化会館) ホール
P25	8月13日(日)	22 クロージングイベント	未定

会場

※下記開催地に併記されている番号はプログラム番号に対応しています。

※プログラムの会場情報は変更の可能性がありますので、アクセスなど最新情報は芸術祭公式ウェブサイトをご覧ください。



チケット

先行抽選申込期間 2023年5月31日(水) 10:00 ~ 6月11日(日) 23:59

一般発売 2023年6月17日(土) 10:00 ~

料金 (全席自由・税込)

一般 4,000円

学生 3,000円 ※当日券は各500円増し

常磐線割引 3,000円 (先行販売のみ・抽選)

常磐線割引の対象者は、日暮里駅(東京都)～岩沼駅(宮城県)を走る常磐線沿線の市区町村に在住・在学・在勤の方です。該当する市区町村などの詳細は常磐線舞台芸術祭ウェブサイトにてお知らせします。

※ この他、ワークショップ・ツアー・参加費無料プログラムは別(各プログラム情報をご確認ください)

※ 学生券・常磐線割引は当日要証明書

チケット取り扱い

チケットぴあ

※ ワorkshop・ツアー・参加費無料プログラムは個別に申し込み方法が異なります。詳細は常磐線舞台芸術祭公式ウェブサイトにておてお知らせします。

「常磐線舞台芸術祭 2023」とは

「常磐線舞台芸術祭」とは福島県を中心とした常磐線沿線で繰り広げられる舞台芸術の祭典です。今夏、7月31日～8月13日を会期とし、「つなぐ、」をテーマに第一回を開催いたします。芸術祭の中心となる福島県の常磐線沿線は、東日本大震災によって被災し、未だその爪痕が色濃く残る地域です。物理的な被害もさることながら、その影響による地域ごと、また外部との社会的な「分断」は当該地域における大きな課題となっております。舞台芸術の力を持って、その分断を少しでも「つなぎ」、それぞれが手繰り寄せ、地域のもつ本来の美しさや魅力を再発見し体感してもらうことを目的とした芸術祭です。

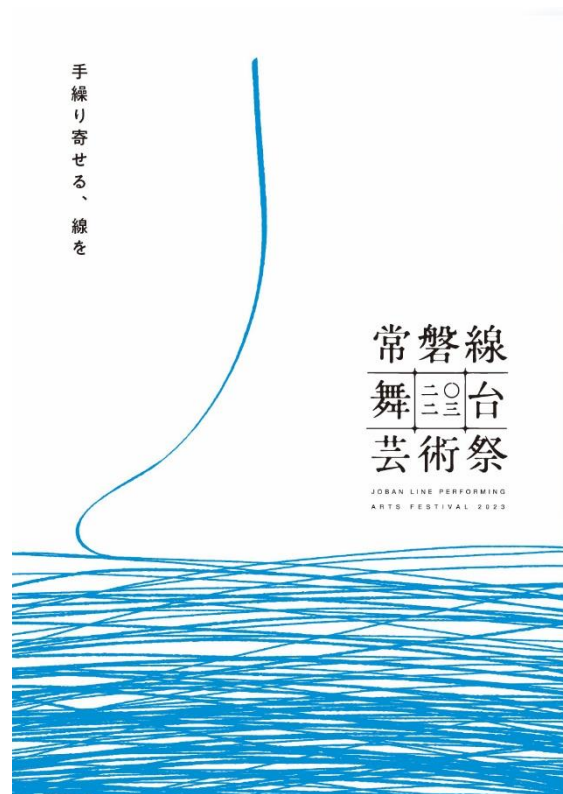
※「常磐線舞台芸術祭 2023」に係る最新情報を随時配信します。

公式ウェブサイト <http://joban-line-paf.jp/>

Facebook : [joban_line_paf](#)

Twitter : [@joban_line_paf](#)

Instagram : [@joban_line_paf](#)



Visual Concept

地震、津波、原発事故、

なんとなく触れてはいけないものが福島にはあると思っていました。

そのイメージが様々な「線」を無意識に作っていたのかもしれない。

今は穏やかとなった海から、ゆっくりと手繰り寄せる線。

それは東京と宮城を繋ぐ常磐線と、

複雑に絡み合ってしまう輪郭を失った「線」を表現しています。

常磐線舞台芸術祭という一本の線が

新たな人と人、そして福島浜通りと世界を繋げる

「線」となるようお願いを込めて。

デザイナー / アートディレクター 形山佳之

形山佳之 かたやま・よしのぶ

「所以ブランドデザイン」代表。グラフィックデザイン事務所2社の勤務を経て、飲食店の立ち上げなど、デザインを通じたブランディング業務に携わり、ジャンルを問わず国内各地の地域や企業のプロダクトのロゴ、パンフレットや食べ物のメニューコンセプト作りなどを行う。表層だけのデザインではなく、クライアントの求めているものを一緒に考え言語化し、コミュニケーションを図りながら創作することを身上とし、ブランディングを通じたものづくりを主な業務としている。

芸術祭ステイトメント

「手繰り寄せる、線を」 文・小松理虔

わたしたちは線を引く。

わたしとあなた、

自国と他国、

北と南、

東と西。

いつの時代も、どの土地でも、

わたしたちは線を引き、自分たちが何者であるかを知ろうとしてきた。

そしてまた、わたしたちを「圏内／圏外」というように切り分け、

「来てはいけない土地」を作りもした。

けれど、内と外をつなぐのも線だ。

道によって点と点は線となりヒトとモノはめぐる。

共感や情という線は、その姿形は見えなくとも、わたしとあなたを隔てていた

もう1本の線を溶かし、あるいは超え、くぐり抜けてゆく。

そのことを、わたしたちは大きな災害を通じて感じ取った。

線は、わたしとあなたをつなぐだろうか。

それとも、分かち断ただろうか。

わたしとあなたの線。

演者と観客の線。

生者と死者の線。

圏内と圏外の線。

線は今、どこにあるのか。どこに引かれていたのか。

考え、そして問いたい。

だから、わたしたちは、手繰り寄せる。

その線を。

青春五月党

1 『JR 常磐線上り列車 - マスク - 』

演劇



撮影：新井卓

日時 7月21日（金）～28日（金）※プレ公演

開演時間未定

8月4日（金）～6日（日）

開演時間未定

会場 Rain Theatre

福島県南相馬市小高区東町1-10

作・演出 柳 美里

出演 秋元菜々美、大内彩加、菊池佳南（うさぎストライプ・青年団）、佐藤真喜子（かまどキッチン）、関根颯姫（青春五月党）、名古屋 愛（青春五月党・青年団）、緑川史絵（青年団）、福島県立ふたば未来学園高等学校演劇部、他

3年ぶりの新作公演。「マスク」を通して描かれる現在する過去

「マスク」の舞台となるのは、JR常磐線上り列車。

同じ車輦に乗り合わせるの、三つの異なる時を生きる高校生たちである。

新型コロナウイルスのパンデミックの中、感染症対策のためにマスクを着用して下校する高校生たち。

2011年10月、放射線防護のためにマスクを着用し、避難先からサテライト校に通う高校生たち。

2011年3月10日、マスクを着用せずに電車通学する高校生たち。

出来事は過去に編入される際に正負や善悪に振り分けられがちだが、過去の今を生きる人々もまた、

現在の今を生きる私たちと同様に、これから何が起こるか全く知らされないまま未来を眼差していたのである。

彼らと私たちは、同じ時に揺られて、同じ方向に進んでいる。

『常磐線上り列車 - マスク - 』で描く時は、現在する過去である。

チケット情報

料金（全席自由・税込）：一般4,000円 学生3,000円 ※当日券は各500円増し

※常磐線割引3,000円（先行販売のみ・抽選） ※未就学児入場不可

青春五月党 せいしゅんごがつとう

柳 美里が1987年に18歳で旗揚げした演劇ユニット。1993年『魚の祭』で岸田國士戯曲賞を最年少受賞。1994年『Green Bench』が戯曲として初めて第7回三島由紀夫賞の最終候補となる。1995年までの8年間で、柳 美里の戯曲10作品を上演する。以降、小説に軸足を移していたが、2018年に南相馬市小高区の自宅裏倉庫で四半世紀の沈黙を破り、復活公演『静物画』『町の形見』を連続上演。2019年『ある晴れた日に』では、南相馬市、仙台市、盛岡市の東北ツアーを行う。

共催：Rain Theatre（一般社団法人 OSPA） 企画・制作：青春五月党 照明プラン：海藤春樹 舞台美術：杉山 至 宣伝美術：鈴木成一デザイン室
制作：柳 丈陽、鄭 慶一 映像・音声協力：JR 東日本、JR 東日本企画、他

青年団

2 『銀河鉄道の夜』

演劇



日時 8月1日(火)～2日(水)
8月1日(火) 14:00、2日(水) 17:00

会場 勿来市民会館
福島県いわき市錦町上川田 21

原作 宮沢賢治
作・演出 平田オリザ
出演 井上みなみ、永田莉子、福田倫子、知念史麻、高橋智子

宇宙の果ての輝く星々と美しい友情で紡ぐ、いのちのファンタジー。

「銀河ステーション。」

星祭りの夜、1人寂しく夜空を見上げるジョバンニの耳に突如響く車掌の声。

親友カンパネルラとともに“本当の幸せ”を求めて様々な星座を旅し、2人の行き着く先は一。

本作は、宮沢賢治の名作『銀河鉄道の夜』を、フランスの子どもたちに届けるために平田オリザが戯曲化した、子ども向けの演劇作品です。

平田は、この舞台化に当たって、「友人の死を受け入れることで成長していく少年の物語」というシンプルな構成を取り、『銀河鉄道の夜』を力強く再生し、大好評を博しました。

日本語版は、2011年春のリーディング公演、2012年春の初演後、東日本大震災の被災3県を含む、全国各地で上演を重ね、多くの子どもたちが劇場を訪れています。

チケット情報

料金(全席自由・税込): 一般 4,000円 学生 3,000円 ※当日券は各 500円増し

※常磐線割引 3,000円(先行販売のみ・抽選) ※未就学児入場不可

青年団 せいねんだん

1982年結成。こまばアゴラ劇場を拠点に、平田が提唱した「現代口語演劇理論」を通じて新しい演劇様式を追求し、90年代以降の演劇界に強い影響を与え続けている。劇団内で独自の企画を行う不定形のユニット「青年団リンク」は若手アーティスト育成の場として、才気あるアーティストを多く輩出。2020年より兵庫県豊岡市の新拠点「江原河畔劇場」からも作品の創作・発信を行なっている。

美術: 杉山 至 舞台監督: 中西隆雄 舞台監督補: 原田香純 照明: 井坂 浩 音響: 秋田雄治
映像: ワタナベカズキ 映像操作: 島田曜蔵 衣裳: 正金 彩 衣裳製作: 中原明子 制作: 太田久美子
企画・制作: 青年団/有限会社アゴラ企画

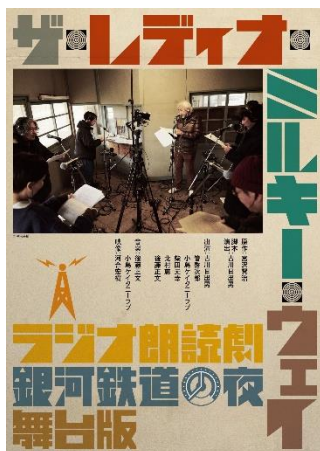
3 『ザ・レディオ・ミルクィー・ウェイ』

朗読劇

演劇

音楽劇

ラジオ朗読劇『銀河鉄道の夜』舞台版



ポスター：梶田透 (nix graphics)

日時 8月1日(火)～2日(水)

8月1日(火) 18:00、2日(水) 13:00

会場 新地町文化交流センター (観海ホール)

福島県相馬郡新地町駅前 1-3

原作 宮沢賢治

脚本・演出 古川日出男

出演 古川日出男、管啓次郎、小島ケイタニーラブ、柴田元幸、北村 恵、後藤正文

音楽 後藤正文、小島ケイタニーラブ

映像 河合宏樹

福島と岩手で今春放送されたラジオ番組を音楽も含めて舞台上で再現

銀河ラジオ(ザ・レディオ・ミルクィー・ウェイ)の人気DJゴトウのもとに、ある夜ふしぎな投書が届けられた。ジョバンニという弟が行方不明なのだ、とその女性のボイスメールは訴える。果たしてジョバンニ少年はどこにいるのか?そしてジョバンニの親友・カムパネルラはどうなったのか? 純粋な子どもたちの想いを追って、銀河ラジオの報道員(レポーター)たちの冒険が始まる。「宮沢賢治さん、賢治さん、これがラジオです。これが銀河のラジオです」——今年3月に、ふくしまFMとエフエム岩手の共同特別番組としてオンエアされたラジオ朗読劇が、舞台上の新たな作品に。音楽もその場で再現されて、劇場に銀河宇宙への「窓」を開きます。

チケット情報

料金(全席自由・税込):一般4,000円 学生3,000円 ※当日券は各500円増し

※常磐線割引3,000円(先行販売のみ・抽選) ※未就学児入場不可

朗読劇『銀河鉄道の夜』 ろうどくげき・ぎんがてつどうのよる

宮沢賢治の名作を小説家・古川日出男がオリジナル脚本に仕上げた朗読劇『銀河鉄道の夜』が誕生したのは、2011年の聖夜のこと。古川自身の朗読に、音楽家・小島ケイタニーラブの音楽と歌、詩人・管啓次郎の書き下ろしの詩、そして翻訳家・柴田元幸のバイリンガル朗読が加わり、まったく新しい「賢治」の世界が生まれた。そこから12年。上演する時期や土地にあわせて脚本や演出を変容させながら、東北をはじめ全国20か所以上をまわってきた。2021年には映像作品「コロナ時代の銀河-朗読劇『銀河鉄道の夜』」(監督:河合宏樹)で第32回宮沢賢治賞奨励賞を受賞。今作『ザ・レディオ・ミルクィー・ウェイ』では常連4名に加え、劇団「ワウフラミンゴ」と「青年団」制作部に所属する北村 恵、ASIAN KUNG-FU GENERATIONのボーカル&ギターの後藤正文がゲスト参加。

<https://milkyway-railway.com/>

音響:川島寛人、北田 啓、太田香邑(RIME株式会社) 記録写真:朝岡英輔 宣伝美術:梶田透(nix graphics)

広報:浦谷晃代 広報補佐:北村 恵 制作:関戸詳子、浦谷晃代 制作補佐:青木比登美、古川千枝

企画・制作:朗読劇『銀河鉄道の夜』制作チーム

青森中央高校演劇部 × 福島県の高森生たち

演劇

4 『もしイタ ～もし高校野球の女子マネージャーが青森の「イタコ」を呼んだら』



撮影：西澤 勝

日時 8月1日（火） 17:00

会場 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校
多目的ホール「みらいシアター」
福島県双葉郡広野町中央台 1-6-3

作・演出 畑澤聖悟

出演 青森県立青森中央高等学校演劇部、福島県の高森生たち

東日本大震災被災地応援のために作られた「奇跡の高校演劇」。 福島の高森生とコラボします。

東日本大震災の避難所となった体育館などで、どこでも演じられるように創られたこの作品は、照明、音響、大道具、小道具を用いず、効果音や舞台装置も含めすべてを俳優が表現します。青森中央高校演劇部によって2011年9月から足かけ2013年で全国の22都府県50市町（+海外）で107ステージ上演。そのうちの気仙沼市、大船渡市、釜石市などでの19公演は被災地応援公演として行われました。「第58回全国高等学校演劇大会」（2012年）で最優秀賞を受賞。「フェスティバル／トーキョー14」（東京）、「フェスティバル・ボム」（ソウル）などに招待され、好評を得ました。福島県と青森県の高森生がともに演じるこのプロジェクトで、2011年当時からの悲願達成です。

チケット情報

料金（全席自由）：無料（要申込）

畑澤聖悟 はたさわ・せいご

劇団「渡辺源四郎商店」店主。青森市を拠点に全国的な活動を行っている。2005年『俺の屍を越えていけ』で日本劇作家大会短編戯曲コンクール最優秀賞受賞。劇団民藝『カミサマの恋』、こまつ座『母と暮せば』、ホリプロ『hana 1970-コザが燃えた日-』など書き下ろし多数。2017年『親の顔が見たい』がFOXコリアにより映画化。ラジオドラマの脚本で文化庁芸術祭大賞、ギャラクシー大賞、日本民間放送連盟賞などを受賞。現役の公立高校教諭であり、演劇部顧問。

企画・制作：なげんわーく合同会社

青森中央高校演劇部

5 『ジンコちゃんの世界』

演劇



撮影：西澤 勝

日時 8月2日（水）17:00

会場 いわき芸術文化交流館アリオス 小劇場
福島県いわき市平字三崎 1-6

作・演出 畑澤聖悟

出演 青森県立青森中央高等学校演劇部

たった一匹から始まった 10 日間の王国。

ミジンコの「宇宙」を見つめる生命の物語。

ガラス瓶の中のたった一個の休眠卵から始まったミジンコの王国の 10 日間とそれを見つめる少女の物語です。青森県立青森中央高等学校演劇部によって 2016 年初演され、「第 49 回東北地区高等学校演劇発表会」（いわき芸術文化交流館アリオス 大ホール）で優秀賞を受賞。「第 11 回春季全国高等学校演劇研究大会」（大垣市民会館）で上演されました。

チケット情報

料金（全席自由）：無料（要申込）

青森県立青森中央高等学校演劇部 あおりけんりつ・あおりちゅうおうこうとうがっこう・えんげきぶ

全国高校演劇大会では『修学旅行』（2005 年）、『河童』（2008 年）、『もしイタ』（2012 年）で最優秀賞を受賞。3 回の日本一に輝いたほか、優秀賞を 5 回受賞しています（全国大会での受賞数 8 は全国最多）。全国高校演劇研究大会（春フェス）の出場は 5 回。青森空襲を体験した方々からの取材や、手記などを元に部員自ら構成・演出した『7 月 28 日を知っていますか？』を毎年 7 月 28 日（空襲の日）に上演し続けて 9 年目。2015 年の映画『幕が上がる』には主演のももいろクローバー Z のラスボスのライバルチームとして部員全員で出演しました。

企画・制作：なべげんわーく合同会社

渡辺源四郎商店

6 『空に菜の花、地に鉞』

演劇



イラスト：山下昇平

日時 8月5日（土）～6日（日）
8月5日（土）17:00、6日（日）13:00

会場 新地町文化交流センター（観海ホール）
福島県相馬郡新地町駅前 1-3

作・演出 畑澤聖悟
出演 渡辺源四郎商店

ミサイルの行方は菜の花の咲く半島。

東北地方北部。大きな鉞（まさかり）の形をした半島の付け根にある海沿いの小さな村に一人の青年がやって来ます。美しい村の風景に心奪われ、村の娘に恋をする青年。しかし、青年には使命がありました。独裁者の支配する某国からのミサイルをこの村の原子力施設に誘導するのです。原子燃料サイクル施設、使用済燃料中間貯蔵施設、原子力発電所、米軍三沢基地を要する青森県をモデルに、国の政策に翻弄される人々を描く SF 活劇です。

チケット情報

料金（全席自由・税込）：一般 4,000 円 学生 3,000 円 ※当日券は各 500 円増し
※常磐線割引 3,000 円（先行販売のみ・抽選） ※未就学児入場不可

渡辺源四郎商店 わたなべげんしろうしょうてん

2005 年旗揚げ。青森駅にほど近い「渡辺源四郎商店しんまち本店」を本拠地に全国展開の演劇活動を行っています。一般社団法人進め青函連絡船とともに青函連絡船を切り口に日本の歴史を考え、後世に伝える演劇公演やワークショップも多数。『ショウジさんの息子』で、「CoRich 舞台芸術まつり 2008」グランプリを受賞。「フェスティバル／トーキョー14」に『翔べ！ 原子力ロボむつ〜愛・戦士編〜』で参加しました。

企画・制作：なべげんわーく合同会社

舞台監督：中西隆雄 舞台美術：山下昇平

音響：藤平美保子 照明：中島俊嗣

プロデュース：佐藤 誠 ドラマターグ：工藤千夏

青年団

7 阿房列車／思い出せない夢のいくつか

演劇



撮影：三浦雨林

会場 Rain Theatre

福島県南相馬市小高区東町 1-10

チケット情報

本公演は同会場・同じセットで2作品を上演する試みです。

(同時上演ではないためチケットは作品ごとに販売)

料金(全席自由・税込)：一般 4,000円 学生 3,000円 ※当日券は各 500円増し

※常磐線割引 3,000円(先行販売のみ・抽選) ※未就学児入場不可

『阿房列車』

日時 8月10日(木)～12日(土)

8月10日(木) 15:00、11日(金) 19:00、12日(土) 15:00

作・演出 平田オリザ

出演 中藤 奨、たむらみずほ、田崎小春

平田オリザ初期の傑作短編戯曲、福島で復活。

1991年、平田オリザが他劇団に書き下ろした最初の作品。内田百閒の名作『阿房列車』をベースに、中年の夫妻のあてどない旅の風景を描く初期平田オリザの傑作短編戯曲。目的もなく旅に出た二人は、列車の中で不思議な若い女と出会う。何か事件が起こるわけでもない日常の延長のような列車の旅のなか、諸相の向こうから様々な風景が浮かび上がってくる。

『思い出せない夢のいくつか』

日時 8月10日(木)～12日(土)

8月10日(木) 19:00、11日(金) 15:00、12日(土) 19:00

作・演出 平田オリザ

出演 兵藤公美、大竹 直、南風盛もえ

星の数ほど生まれる思いは、衝突、爆発、死を繰り返す。

これは大人のための『銀河鉄道の夜』。

1994年に青年団プロデュース公演として渋谷のシードホール、横浜の相鉄本多劇場、伊丹のAI・HALLの3都市ツアーを敢行した作品。当時、第七病棟の緑魔子を客演に迎え、「唐十郎さんや石橋蓮司さんが少女のイメージで捉える緑魔子さんとは違う現在の彼女」を登場させて話題となった。宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』や『青森挽歌』、内田百閒の『阿房列車』、寺山修司の『コメット・イケヤ』などを題材にとり、3人の男女の複雑に絡み合う想いを、行く先が定かでない曲がりくねった線路の上を走る列車に乗せて描く。

美術：杉山 至 舞台監督：中西隆雄 舞台監督補：原田香純 照明：西本 彩

衣裳：中原明子(『阿房列車』) 衣裳：正金 彩(『思い出せない夢のいくつか』) 制作：太田久美子 企画・制作：青年団／有限会社アゴラ企画

8 日没を祭れ 2023 第一日 『日没、新しい夜明けに』

合唱



日時 8月5日（土）17:00 開場 ※準備が整い次第開演

会場 東日本大震災・原子力災害伝承館
福島県双葉郡双葉町大字中野字高田 39

企画 和合亮一

演出 佐藤典之

1部 | 出演 千葉清藍、山中 透、和合亮一

2部 | 出演 福島県合唱連盟いわき支部、浪江混声合唱団、
ゆめはっと合唱団、全国公募・有志参加者

日没に捧げる書と音楽と詩のインプロビゼーションと合唱の祭典

「サムライ・リーディング」と海外で称された和合亮一のリーディングパフォーマンスと、海外でのめざましい活躍で知られており、あったかふくしま観光交流大使も務めている千葉清藍の書と、マルチ・メディア・グループ「ダムタイプ」の創成期のメンバーであり、作曲家・ディレクター・DJとして幅広く活動する山中 透の三者の奇蹟のインプロビゼーションのライブが開催となります。2部では、1部で記された千葉の書を真ん中に置きながら、福島を代表する合唱団と被災地に思いを届けるために志を抱いて全国から集った有志の合唱人が、東日本大震災に捧げた和合亮一作詞・信長貴富作曲の新曲「光の走者よ」と、震災からずっと歌い継がれている曲「夜明けから日暮れまで」、そしてこの小高・浪江の土地から生まれた名曲「群青」「大地讃頌」の数々を歌い上げます。アーティストたちが何かを守るために集まります。被災地からの新しい発信をぜひ受け止めてください。

チケット情報

料金：無料（要申込）

和合亮一 わごう・りょういち

1968年福島県生まれ。詩人。中原中也賞、晩翠賞、萩原朔太郎賞など受賞。2011年、東日本大震災直後の福島からTwitterで連作詩『詩の礫』を発表し続け、同年5月、世界三大コンサートホールであるオランダのコンセルヘボウに招致、朗読にて福島への想いを発信した。2017年7月、詩集『詩の礫』（徳間書店）がフランスにて翻訳・出版され、第一回ニュク・レビュー・ポエトリー賞を受賞。フランスでの詩集賞の受賞は日本文壇史上初となり、国内外で大きな話題を集めた。昨夏には国際芸術祭「あいち2022」にて日本のアーティストに選定され『詩の礫』を出展した。新しい英訳詩集『Since Fukushima』が今春に刊行されたばかりである。吉永小百合氏や坂本龍一氏、紺野美沙子氏、中嶋朋子氏、大友良英氏ら多数の音楽家や俳優と詩の朗読でこれまでも共演を果たしてきた。

企画・制作：「日没を祭れ 2023」実行委員会

企画・構成・監修：和合亮一 演出・制作：佐藤典之 制作(助)：荒 真美

舞台監督・企画：佐久間美紀 照明・企画：佐藤康孝 監修(助)・企画：清野和也 進行・企画：和合敦子

伝承館企画担当幹事：葛西優香 幹事・アドバイザー：原田洋二、横山芳幸、橋本靖治、金成聡司、西岡茂樹、秋山浩太、横山俊顕、田中徳雲、岩本裕貴、平川綾真智、ikoma

9 日没を祭れ 2023 第二日 『日没よ、鎮まれ。』

能楽



日時 8月11日(金) 18:00

会場 小高山 同慶寺
福島県南相馬市小高区小高小高上広畑 246

1部 | 作・演出 和合亮一
出演 清野和也、他

2部 | 作・演出・出演 津村禮次郎

日没に祈りを捧げるアーティストたちの祭典の第二夜 鎮魂と再生の祈りを込めた創作能の舞

1部は詩人和合亮一の作・演出による創作能の試みを、福島を代表する若手演劇人の力を結集して上演いたします。2部は重要無形文化財「能楽」保持者の津村禮次郎氏による極められた創作能を上演いたします。江戸時代以降の相馬氏の菩提寺である、由緒ある美しい境内で行われる、鎮魂と再生への祈りを込めた、言葉と舞いの清新なる夏の夜をぜひ味わってください。

チケット情報

料金(全席自由): 無料(要申込)

津村禮次郎 つむら・れいじろう

1942年福岡県北九州市生まれ。能楽師・シテ方観世流。緑泉会会主。重要無形文化財(能楽総合)指定保持者。(公社)能楽協会、(一社)日本能楽会会員。二松学舎大学文学部特任教授、一橋大学社会学部講師を勤める。一橋大学経済学部(1964)、社会学部卒業(1968)。大学在学中に一橋観世会に所属し、女流能の草分け津村紀三子の指導を受け能楽の道を志し、その後先代観世喜之師に師事する。1974年に緑泉会後継者となり、定例公演を主宰し古典能の普及と継承に努め、79年より地元小金井市で作家・林望氏と小金井薪能を企画開催し、2023年8月第45回となり2019年には『雨ニモマケズ』を森山開次の演出振付、Atoa.の和太鼓演奏等で初演。古典能のみならず、創作能、新演出、ダンス界の森山開次、酒井はな、オペラ界の福井敬などと多数共演共作、演劇界では野田秀樹と交流が深く舞台作品制作に関わる。2010年度文化庁文化交流使としてロシア、ハンガリーに派遣される。欧州諸国と縁が深く海外公演普及活動を多数行う。2023年古典楽器を中心に「TEAM NOSARU」を結成し3年ぶりにヨーロッパツアーを行う。宮城県、福島県とも縁が深く、公演や指導活動を継続している。仙台市では「能BOX」を拠点に長年に亘って市民活動を行う。特に2011年大震災以来、福島・三陸地方の被災地との交流事業を継続し、東京キャラバンやバレエ公演に参加する。2022年8月には陸前高田市・奇跡の一本松ホールで創作『能とオペラ・海士AMA』を上演する。個人的には縁あって1962年得度し仏門に入り、身延山にて修行し僧籍を得る。著作に『能・狂言図典』『能がわかる100のキーワード』、写真集『舞幻・BUGEN』(森田拾史郎撮影)を出版。舞台・舞姿は能関連の書籍に多数掲載される。2015年にドキュメンタリー映画『躍る旅人 能楽師・津村禮次郎の肖像』(監督制作・三宅流)が公開された。

企画・制作: 「日没を祭れ 2023」実行委員会

企画: 和合亮一 舞台監督: 佐久間美紀 企画・照明: 佐藤康孝 音響: 本儀拓 制作: 佐藤典之

堀川 炎

10 『窓の外の結婚式』 (利賀日本博プログラム)

演劇



22年 世田谷シルク「春夏秋冬」@大倉英揮

日時 8月12日(土) 18:30

会場 平中央公園 (いわき芸術文化交流館アリオス前広場)
福島県いわき市平三崎1

原作 柳 美里

演出 堀川 炎

出演 近藤 強、鄭 亜美、石松太一、藤瀬のりこ、倉島 聡
(以上、青年団)

彼女は歩き出した。

ウェディングパークの隣に住む再婚夫婦は、窓の外の結婚式をながめている。

女はふと、自分が実家の台所に立っているような錯覚に襲われる。そして母親の郷土料理の作り方を教える声や、亡くなった夫のプロポーズを思い出す。時間は逆戻りし、元夫や父親は姿を現し、場所は当時の結婚式場に変わる。

今作は、津波によって1人生き残った、とある女性を描いている。現在と過去の時間軸を行き来し、隣にいる夫とは別の男性を思い出しながら言いようのない悲しみを背負う彼女。それは震災を風化させてはいけない事実に触れると同時に、大きな被害にあわなかった他の人々へも、過去の悲しみを乗り越えていく強さときっかけを予感させてくれる。

チケット情報

料金：無料(要申込)

※雨天決行、雨具は各自お持ちください。

堀川 炎 ほりかわ・ほのお

脚本家・演出家・振付家。2008年より世田谷シルクを主宰。内容を「くすっと笑えるアート」と称し、日常のちょこっとだけおかしい状況を描く。近年はビジュアルアート(視覚芸術)に間口を広げ、会話にこだわらない表現で創作している。オペラの演出助手もおこなう傍ら、劇団としてはインドやスウェーデンでの共同制作や、「瀬戸内国際芸術祭」、「奥能登国際芸術祭」に参加。

美術：鈴木健介 衣裳：綾

企画・制作：青年団/有限会社アゴラ企画

11-14 | Voice on Voice

「Voice on Voice」は常磐線沿線の駅舎周辺でアーティストと音楽家がコラボレーションする企画です。常磐線舞台芸術祭でのみ実現しうる共演をお楽しみください。

声は何にも似ていない。
鉄管にもケーキにも似ていない。
見えないし触れない。
光らないし臭わない。

だけど声は、人と人をつないで、運ぶ。
人と人を集めて、散らせる。
まるで鉄道の駅みたい。

だから声に声を重ねる。あの駅で。
声と声を触れさせる。あの駅で。この駅で。

文・古川日出男

チケット情報

料金（全席自由・税込）：一般 4,000 円 学生 3,000 円 ※当日券は各 500 円増し
※常磐線割引 3,000 円（先行販売のみ・抽選）
※会場は屋外の可能性もあります。雨天決行、荒天中止、雨具は各自お持ちください。

11 『二つの駅舎、ボイス・オン・ボイス』 古川日出男 × 後藤正文

日時 8月3日（木）、4日（金） 時間未定

会場 JR 富岡駅周辺（3日）、JR 新地駅周辺（4日）

出演 古川日出男、後藤正文



©朝岡英輔

古川日出男 ふるかわ・ひでお

1966年福島県生まれ。1998年のデビュー以来、掌篇から巨篇まで様々なスケールの小説を書き続けながら戯曲や評論、ノンフィクション作品も発表。また朗読を軸に他分野の表現者とのコラボレーションによる創作の機会も多く、執筆にとどまらない縦横無尽な文学表現に取り組む。

<https://furukawahideo.com>



後藤正文 ごとう・まさふみ

1976年静岡県生まれ。ASIAN KUNG-FU GENERATION のボーカル&ギター。新しい時代とこれからの社会を考える新聞「THE FUTURE TIMES」の編集長を務める。インディーズレーベル「only in dreams」主宰。

<https://gotch.info/>

音響（PA）：川島寛人 + RIME 株式会社

12 『JR 常磐線夜ノ森駅』 柳 美里 × 尾崎世界観

日時 8月7日（月） 時間未定

会場 富岡町 夜の森公園周辺

出演 柳 美里、尾崎世界観



撮影：穴戸清孝

柳 美里 ゆう・みり

1968年、茨城県土浦市生まれ。高校中退後、東多多加率いるミュージカル劇団「東京キッドブラザース」に入団。俳優を経て、87年に演劇ユニット「青春五月党」を結成。93年『魚の祭』で岸田國士戯曲賞を最年少受賞。97年『家族シネマ』で芥川賞を受賞。2015年4月、鎌倉から南相馬市原町区へ転居。2018年、福島県南相馬市小高区の自宅を改装し、ブックカフェ「フルハウス」をオープン。同年「青春五月党」を復活させる。2020年『Tokyo Ueno Station (JR 上野駅公園口)』で全米図書賞（翻訳文学部門）を受賞。

尾崎世界観 おざき・せいかかん

1984年11月9日、東京都生まれ。2001年結成のロックバンド「クリープハイプ」のヴォーカル・ギター。2012年、アルバム『死ぬまで一生愛されてると思ってたよ』でメジャーデビュー。2014年、初の日本武道館 2Days 公演を開催、2018年にも4年振りとなる日本武道館公演を成功させる。2021年12月に6thアルバム『夜にしがみついて、朝で溶かして』をリリース。2023年3月には、新作EP『だからそれは真実』をリリースし、幕張メッセ国際展示場・大阪城ホールというキャリア史上最大規模の会場にて、アリーナツアー 2023「本当なんてぶっ飛ばしてよ」を開催した。2016年、初小説『祐介』（文藝春秋）を上梓。その他の著書に『苦汁 100%』、『苦汁 200%』（ともに文藝春秋）、『泣きたくなるほど嬉しい日々』。2021年1月に単行本が発売された中篇小説『母影』は第164回芥川賞の候補作に選出された。

13 『浜通りと中通りの境』 和合亮一 × 田島貴男 (Original Love)

日時 8月8日（火） 時間未定

会場 JR 福島駅東口周辺

出演 和合亮一、田島貴男 (Original Love)



和合亮一 わごう・りょういち

1968年福島県生まれ。詩人。中原中也賞、晩翠賞、萩原朔太郎賞など受賞。2011年、東日本大震災直後の福島からTwitterで連作詩『詩の礫』を発表し続け、同年5月、世界三大コンサートホールであるオランダのコンセルヘボウに招致、朗読にて福島への想いを発信した。2017年7月、詩集『詩の礫』（徳間書店）がフランスにて翻訳・出版され、第一回ニュンク・レビュー・ポエトリー賞を受賞。フランスでの詩集賞の受賞は日本文壇史上初となり、国内外で大きな話題を集めた。昨夏には国際芸術祭「あいち 2022」にて日本のアーティストに選定され『詩の礫』を出展した。新しい英訳詩集『Since Fukushima』が今春に刊行されたばかりである。吉永小百合氏や坂本龍一氏、紺野美沙子氏、中嶋朋子氏、大友良英氏ら多数の音楽家や俳優と詩の朗読でこれまでも共演を果たしてきた。

田島貴男 (Original Love) たじま・たかお

1987年、田島貴男を中心とする前身バンド“レッドカーテン”から“Original Love”に改名し Original Love としてのキャリアがスタート。1991年 Original Love としてアルバム『LOVE! LOVE! & LOVE!』でデビュー。代表作としてシングル「接吻」（1993年）、アルバム『風の歌を聴け（1994年）』など。2022年発売 20 作目の最新アルバム『MUSIC, DANCE & LOVE』（オリコンウィークリーチャート初登場 13 位）は、佐野康夫、小松秀行、河合代介など強力にファンキーなリズム隊を従え、ストレートな社会的メッセージを打ち出した歌詞を含む、現代のニューソウ的な作品が話題となり、2022年度 CD ショップ大賞にノミネートされる。バンドでの表現以外に、2011年頃より田島貴男がひとりでフット・タンバリン、フット・ストンプ、リゾネーターギターのボディヒットなどを駆使して行う「ひとりソウルショウ」や“弾き語り”での独自の表現で新機軸を見せ、数々のフェスやイベントへ出演するようになる。

2021年、コロナ禍にありながら弾き語りツアーや“ひとりソウルショウ”での全国ツアーを敢行、プライベートスタジオからの配信ライブなども積極的に行い、ひとりでのライブ楽曲を収録した初のアルバム『骨 toneBLUES』を発売。

2022年、Original Love として「フジロックフェスティバル」GREEN STAGE に出演し、田島貴男としてもピラミッドガーデンに出演。大いに盛り上がるなどしており、近年さらなる活躍を見せている。



14 『荒地の家族』 佐藤厚志 × Miya

日時 8月9日（水） 時間未定

会場 未定

出演 佐藤厚志、Miya



©新潮社

佐藤厚志 さとう・あつし

1982年宮城県仙台市生まれ。東北学院大学文学部英文学科卒業。仙台市在住、丸善仙台アエル店勤務。2017年第四十九回新潮新人賞を『蛇沼』で受賞。2020年第3回仙台短編文学賞大賞を『境界の円居（まどい）』で受賞。2021年『象の皮膚』が第三十四回三島由紀夫賞候補。2023年『荒地の家族』で第168回芥川龍之介賞を受賞。現在、「河北新報」日曜版にて『常盤団地第三号棟』を連載中。

Miya みや

宝玉宮雪 音楽家

生命の息吹（フルート、能管・龍笛など日本の笛）情動的身体の拡張（モジュラーなどの電子楽器）で神聖な音の場を生み出す人。東京を拠点に国際的に活動。山下洋輔をプロデューサーに迎えた『Miya's Book』などこれまでに4枚のアルバムをリリース。2010年にロンドンにて作曲を学び、ヨーロッパ各地の即興オーケストラに参加。その経験を元に、日本での即興オーケストラの立ち上げに関わり指揮。ジャンルを超えたアートとの連携にも力を入れ共演は多岐にわたる。近年はエフェクターやコンピューター、モジュラーなどの電子的なアプローチを取り入れ、「瀬戸内国際芸術祭」に参加。福島県南相馬市に伝わる民俗神楽の復興を手がける。2018年ごろより能管を一噌幸弘に、龍笛を八木千暁に師事。神楽師として寶玉流一噌派・宝玉宮雪としても活動をはじめた。洋の東西を問わない音楽性と、伝統的楽器と電子楽器を縦横無尽に組み合わせ、ユビキタスな音楽を織りなしている。



15-16 | Workshop 演劇ワークショップ

国内で活躍する演出家を招聘し開催する演劇ワークショップ。

第一線で活躍するアーティストの創作を体験し、アーティストの「視点」を体感することができます。

15 福名理穂（ぱぶりか）劇作ワークショップ

日時 8月2日（水）、3日（木）18:30~21:30

会場 いわき芸術文化交流館アリオス 大リハーサル室 福島県いわき市平字三崎 1-6

参加料 料金未定

ファシリテーター 福名理穂

アシスタント 岡本 唯



ぱぶりか

2014年に福名理穂が立ち上げた演劇をつくる団体。

メンバー：福名理穂、岡本 唯、込江 芳、林 紗弥

主に広島弁を用いた会話劇を創作し、他者との間にあるわかりあえなさ、それを抱えながら暮らしていく人々の様子を丁寧に描く。2021年に上演した第5回公演『柔らかく揺れる』で、第66回岸田国土戯曲賞受賞。

<https://fukurawahideo.com/>

企画制作：ぱぶりか 制作：込江 芳、林 紗弥、半澤裕彦

16 山本卓卓（範宙遊泳）ワークショップ

日時 8月10日（木）時間未定

会場 相馬市民会館 多目的ホール 福島県相馬市中村北町 51-1

参加料 料金未定

講師 山本卓卓



撮影：雨宮透貴

山本卓卓 やまもと・すぐる

劇作家・演出家。範宙遊泳代表。1987年山梨県生まれ。

幼少期から吸収した映画・文学・音楽・美術などを芸術的素養に、加速度的に倫理観が変貌する現代情報社会をビビッドに反映した劇世界を構築する。オンラインをも創作の場とする「むこう側の演劇」や、子どもと一緒に楽しめる「シリーズ おとなもこども」、青少年や福祉施設に向けたワークショップ事業など、幅広いレパートリーを持つ。アジア諸国や北米で公演や国際共同制作、戯曲提供なども行い、活動の場を海外にも広げている。ACC2018 グランティアアーティストとして、19年9月～20年2月にニューヨーク留学。『幼女X』で「Bangkok Theatre Festival 2014」最優秀脚本賞と最優秀作品賞を受賞。『バナナの花は食べられる』で第66回岸田国土戯曲賞を受賞。公益財団法人セゾン文化財団フェロー。 <https://www.hanchuyuei2017.com>

プロデューサー：坂本もも 助成：公益財団法人セゾン文化財団 企画制作：合同会社範宙遊泳

17-18 | Tour ツアー

常磐線沿線には長く、深く、枝分かれした歴史や文化がある。
常磐線沿線に来たら、見てほしい、知ってほしい。その土地のことを。
土地の様々な面を案内人がツアーします。

17 原発事故による 旧避難区域内の文化財巡りツアー

日時 未定
会場 未定
案内人 森 幸彦

原発事故による旧避難指示区域には様々な文化財がありますが、それらを知る機会は多くありません。
土地を「歴史」の面からツアーします。

森 幸彦 もり・ゆきひこ

南相馬市出身。元福島県立博物館学芸員。大熊町教育委員会、福島県文化財センターなどに勤務するかたわら、南相馬市鹿島区の山田神社などの宮司も務める。
現在は津波で流出した神社の記録作成などにも携わる。

18 ロッコクツアー

日時 8月6日（日）、9日（水）10:00~18:00
※10:00 JR いわき駅集合

会場 国道6号線沿い

参加料 無料（要申込）

案内人 小松理虔

福島県浜通りを南北に走る国道6号線、通称ロッコク。国道沿いに点在する震災遺構、産業遺構を巡りながら、震災や近代化・工業化が生み出した「断層線」をたどるツアー。案内人は、著書『新復興論』の中で独自の「ロッコクツアー」を提唱する小松理虔。



小松理虔 こまつ・りけん

1979年いわき市小名浜生まれ。地域活動家。いわき市を拠点に、食、観光、文化芸術などの領域で、さまざまな地域活動と執筆活動を行う。震災復興に関する考えをまとめた『新復興論』（ゲンロン）で第18回大佛次郎論壇賞を受賞。また近年では、編集者として関わったいわきの地域包括ケア「igoku」ではグッドデザイン金賞を受賞するなど地域の福祉などにも活動を広げている。

企画：小松理虔

19-20 | Food 食

地域特有の食文化に触れることは、地域を知るために必要不可欠な要素です。
各地の名産を口にして、より深く福島を体験することができる企画。

19 酒と話「どんちゃん港」

<小名浜編>

日時 8月5日(土) 15:30~18:30

会場 UDOK,

いわき市小名浜本町 29-2

<浪江編>

日時 8月12日(土) 15:30~18:30

会場 Share Place STUDIO B-6

浪江町大字川添字佐野 51-4

いわき市小名浜在住の地域活動家、小松理虔がプロデュースする食と対話の企画。小名浜と浪江。福島県浜通りにある二つの港町を舞台に、地元のうまいものを囲みながら、地元の人もよそものも混じり合い、地域について、文化について、震災や復興についてざっくばらんに語ろうじゃないかという企画。なにはともあれまずは宴。酒と食、対話のあるところに「共事」の回路が立ち上がる。

料金 食事代+参加費として 2500 円 ※お酒の持ち込み可

定員 各 20 名

企画：小松理虔

20 フェスティバル・フードマーケット

日時 未定

会場 未定

料金 入場無料

福島県内の常磐線沿線を中心に、名産やおいしいものが大集合。
各地域の地元の方に「縁日の屋台の名物はこれだよ」と思っていただけのフードマーケットです。

21-22 | Opening / Closing オープニング・クロージング

21 KEYNOTE SPEECH

日時 7月31日（月）13:00

会場 小高生涯学習センター（浮舟文化会館） ホール
福島県南相馬市小高区本町 2-89-1

登壇者 小松理虔、相馬行胤、平田オリザ、古川日出男、柳 美里、和合亮一、他

出演 磐城じゃんがら遊撃隊、富岡表現塾、他

糸と泉——結ぶものと湧き起こるもの。

このフェスティバルで結ばれた人々のトークと、土地に根付いた伝統芸能や文化から、一つの「線」が湧き起こります。

チケット情報

料金：無料（要申込）

22 クロージングイベント

日時 8月13日（日）時間未定

会場 未定

常磐線舞台芸術祭が手繰り寄せ、繋いだ人々と共にフィナーレを飾ります。

それぞれが持つ線を繋ぎ、輪を描くようにフォークダンスを踊って芸術祭を締めくくります。

チケット情報

料金：入場無料

※雨天決行、荒天中止、雨具は各自お持ちください。

主催

常磐線舞台芸術祭実行委員会、一般社団法人常磐線舞台芸術祭

プログラム・ディレクター

柳 美里（劇作家・小説家・青春五月党主宰）

フェスティバル・コーディネーター

平田オリザ（劇作家・演出家・青年団主宰）

プロデューサー

鄭 慶一

柳 丈陽（青春五月党制作・Rain Theatre 支配人）

実行委員（五十音順）

いわき芸術文化交流館アリオス

小松理虔（地域活動家）

相馬行胤（相馬中村藩 34 代当主）

平田オリザ

古川日出男（作家）

柳 美里

和合亮一（詩人）

デザイナー／アートディレクター

形山佳之

テクニカルディレクター

關 秀哉

運営コーディネーター

齋藤夏菜子（福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校）、高山さなえ（青年団・福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校）、久留飛雄己（青年座）

地域コーディネーター

土方正志（荒蝦夷代表）、今野 聡、大内彩加（飯舘村までい大使）、

青木淑子（NPO 法人富岡町 3・11 を語る会代表・富岡演劇祭代表）

佐藤真喜子（一般社団法人おおくままちづくり公社職員・大熊町復興支援員）、平山 勉（双葉郡未来会議代表）

宇名根良平（一般社団法人ふたばプロジェクト）、祓川正道（一般社団法人ふたばプロジェクト）、秋元菜々美

協力

ぴあ株式会社

広報

冠 那菜奈、宮崎有里、山根麻衣子（地域連携）

事務局

石幡 愛、小泉実樹、林 慶一、林田古都里、山田裕子

事業に関するお問い合わせ | 常磐線舞台芸術祭実行委員会 事務局

E-mail : info@joban-line-paf.jp